

放飼養鶏技術の開発

多様化する、鶏卵に対する消費者ニーズに対応できる技術として注目されている放飼養鶏は、多品種少羽数の経営が基本であるため、土地の利用形態が制約される中山間地域などにおいては、複合経営の一部門として大きな期待が寄せられている。

このため、放飼養鶏に適した鶏種の選択と、鶏卵の安全生産に主眼をおいた飼養管理技術を開発し、本県の大部分を占める中山間地域の活性化と新しい養鶏農家の育成に取り組む。

放飼養鶏技術開発試験

1. 飼養管理技術の開発

放飼に適した鶏種を当該保有のロードアイランドレッドを含め比較検討する。
ロードアイランドレッドは分譲可能

2. 鶏卵の衛生管理技術の開発

卵殻表面の細菌増殖抑制や鶏卵の保存技術の検討する。
オゾンガス(増殖抑制)と炭酸ガス(保存)を活用

3. 放飼養鶏技術体系の確立

飼養管理及び鶏卵の衛生管理技術を組み合わせた技術体系を確立する。



試験鶏(イサブラウン)



放飼風景(試験場内)

